

(別添)地方圏の道・県庁所在地別人口増加率と、人口が増加するか、もしくは人口増加率で道・県庁所在地を上回る道・県内の市町村(2015年～2045年の増加率、%)

道・県	道・県庁所在地	人口が増加する、もしくは道・県庁所在地の人口増加率を上回る市町村
北海道	札幌市(▲7.5)	千歳市(▲6.3)、二セコ町(▲7.3)
青森県	青森市(▲36.2)	弘前市(▲31.8)、八戸市(▲29.9)、十和田市(▲33.9)、三沢市(▲28.5)、むつ市(▲35.3)、六戸町(▲20.6)、六ヶ所村(▲34.0)、おいらせ町(▲16.3)、階上町(▲36.0)
岩手県	盛岡市(▲18.1)	北上市(▲16.3)、滝沢市(▲10.2)、矢巾町(▲12.6)
宮城県	仙台市(▲14.7)	名取市(▲0.1)、富谷市(10.1)、利府町(▲2.2)、大和町(▲11.6)
秋田県	秋田市(▲28.5)	なし
山形県	山形市(▲16.4)	天童市(▲15.1)、東根市(▲6.3)
茨城県	水戸市(▲11.7)	牛久市(▲4.1)、つくば市(7.0)、鹿嶋市(▲9.0)、守谷市(▲0.1)、つくばみらい市(7.6)
栃木県	宇都宮市(▲7.2)	なし
群馬県	前橋市(▲18.0)	高崎市(▲12.3)、伊勢崎市(▲9.7)、太田市(▲9.0)、榛東村(▲16.9)、吉岡町(11.8)、大泉町(17.0)
新潟県	新潟市(▲15.0)	聖籠町(▲7.2)
富山県	富山市(▲14.8)	舟橋村(▲12.2)
石川県	金沢市(▲7.7)	野々市市(10.5)、川北町(0.5)
福井県	福井市(▲11.9)	鯖江市(▲6.4)
山梨県	甲府市(▲24.1)	南アルプス市(▲24.0)、甲斐市(▲12.1)、笛吹市(▲21.4)、中央市(▲20.8)、昭和町(▲7.9)、忍野村(▲5.0)、鳴沢村(▲14.4)、富士河口湖町(▲16.6)
長野県	長野市(▲16.4)	松本市(▲11.6)、塩尻市(▲14.3)、佐久市(▲15.4)、軽井沢町(▲14.3)、御代田町(▲0.6)、南箕輪村(▲1.8)、山形村(▲11.4)
静岡県	静岡市(▲19.5)	浜松市(▲11.7)、磐田市(▲14.4)、掛川市(▲18.0)、藤枝市(▲9.7)、御殿場市(▲18.2)、袋井市(▲6.1)、湖西市(▲13.7)、菊川市(▲12.5)、長泉町(▲3.0)
滋賀県	大津市(▲8.1)	彦根市(▲5.8)、草津市(6.2)、守山市(5.4)、栗東市(5.6)、愛荘町(3.4)
和歌山県	和歌山市(▲18.6)	岩出市(▲6.2)、有田川町(▲17.5)、日高町(▲5.8)、上富田町(▲14.6)
鳥取県	鳥取市(▲18.7)	米子市(▲6.9)、日吉津村(2.1)
島根県	松江市(▲14.9)	出雲市(▲8.0)
岡山県	岡山市(▲4.9)	なし
広島県	広島市(▲6.0)	東広島市(▲5.5)、坂町(▲5.6)
山口県	山口市(▲9.6)	なし
徳島県	徳島市(▲20.7)	松茂町(▲13.5)、北島町(0.5)、藍住町(▲2.7)
香川県	高松市(▲10.1)	宇多津町(▲1.5)
愛媛県	松山市(▲14.7)	なし
高知県	高知市(▲19.6)	なし
福岡県	福岡市(7.5)	粕屋町(20.4)、大野城市(6.8)、志免町(3.7)、須恵町(3.8)、新宮町(3.3)、久山町(2.5)
佐賀県	佐賀市(▲11.3)	鳥栖市(2.2)、上峰町(▲6.8)、江北町(▲7.9)
長崎県	長崎市(▲27.6)	佐世保市(▲20.9)、諫早市(▲22.8)、大村市(▲4.5)、長与町(▲18.7)、時津町(▲24.1)、波佐見町(▲23.7)、佐々町(▲15.8)
熊本県	熊本市(▲6.8)	合志市(13.3)、大津町(16.0)、菊陽町(20.3)
大分県	大分市(▲9.2)	なし
宮崎県	宮崎市(▲11.8)	三股町(▲8.9)
鹿児島県	鹿児島市(▲15.9)	始良市(▲13.2)
沖縄県	那覇市(▲6.0)	宜野湾市(6.6)、石垣市(▲4.5)、浦添市(2.8)、名護市(▲0.2)、糸満市(▲2.2)、沖縄市(6.8)、豊見城市(14.0)、うるま市(▲0.8)、南城市(6.9)、恩納村(12.0)、宜野座村(16.0)、金武町(0.2)、読谷村(2.4)、北谷町(5.8)、北中城村(0.2)、中城村(29.4)、与那原町(1.7)、南風原町(13.6)、八重瀬町(11.2)

(注) ()内は各市町村の人口増加率(%)。赤字は中枢中核都市とか中枢中核都市に隣接する自治体。

(資料) 国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口(2018年推計)』より、みずほ総合研究所作成

(別添)中枢中核都市における、
15～39歳の女性人口100人に対する男性人口の上昇度合い(人、2015年～2045年)

道府県	政令指定都市 (15市)	中核市 (43市)	施行時特例市 (18市)	県庁所在市 (3市/47市)	連携中枢都市 (3市/30市)
北海道	札幌市(▲0.3)	函館市(2.4) 旭川市(5.2)		(札幌市)	
青森県		青森市(6.5) 八戸市(6.2)		(青森市)	(八戸市)
岩手県		盛岡市(2.0)		(盛岡市)	(盛岡市)
宮城県	仙台市(3.5)			(仙台市)	
秋田県		秋田市(2.6)		(秋田市)	
山形県			山形市(7.3)	(山形市)	
福島県		福島市 郡山市 いわき市		(福島市)	
茨城県			水戸市(8.7) つくば市(▲4.6)	(水戸市)	
栃木県		宇都宮市(0.1)		(宇都宮市)	
群馬県		前橋市(3.0) 高崎市(1.5)	伊勢崎市(6.8) 太田市(7.4)	(前橋市)	
新潟県	新潟市(▲0.6)		長岡市(0.2) 上越市(10.6)	(新潟市)	(新潟市)
富山県		富山市(1.9)		(富山市)	(富山市) 高岡市(12.5)・射水市(1.3)
石川県		金沢市(1.3)		(金沢市)	(金沢市)
福井県			福井市(0.5)	(福井市)	
山梨県			甲府市(▲6.2)	(甲府市)	
長野県		長野市(5.3)	松本市(1.4)	(長野市)	(長野市)
岐阜県		岐阜市(6.0)		(岐阜市)	(岐阜市)
静岡県	静岡市(4.4) 浜松市(0.6)		沼津市(5.8) 富士市(▲0.1)	(静岡市)	(静岡市)
愛知県	名古屋市(2.1)	豊橋市(5.0) 岡崎市(3.7) 豊田市(▲6.5)	春日井市(▲1.1)	(名古屋市)	
三重県			四日市市(2.4)	津市(1.7)	
滋賀県		大津市(0.7)		(大津市)	
京都府	京都市(0.9)			(京都市)	
大阪府	大阪市(▲0.5) 堺市(2.0)	八尾市(▲2.7) 東大阪市(5.3)	岸和田市(1.2) 吹田市(▲2.8) 茨城市(1.1)	(大阪市)	
兵庫県	神戸市(2.1)	姫路市(2.9) 尼崎市(0.2) 西宮市(1.0)		(神戸市)	(姫路市)
奈良県		奈良市(▲2.6)		(奈良市)	
和歌山県		和歌山市(▲0.1)		(和歌山市)	
鳥取県		鳥取市(5.3)		(鳥取市)	(鳥取市)
島根県		松江市(1.5)		(松江市)	
岡山県	岡山市(0.4)	倉敷市(1.8)		(岡山市)	(岡山市) (倉敷市)
広島県	広島市(▲0.6)	呉市(3.9) 福山市(4.2)		(広島市)	(広島市) (福山市) (呉市)
山口県		下関市(9.0)		山口市(5.9)	(下関市) (山口市)・宇部市(2.9)
徳島県				徳島市(▲2.6)	
香川県		高松市(2.7)		(高松市)	(高松市)
愛媛県		松山市(8.5)		(松山市)	(松山市)
高知県		高知市(4.6)		(高知市)	(高知市)
福岡県	北九州(2.8) 福岡市(▲1.9)	久留米市(0.1)		(福岡市)	(北九州市) (久留米市)
佐賀県			佐賀市(▲3.5)	(佐賀市)	
長崎県		長崎市(17.8) 佐世保市(▲3.2)		(長崎市)	(長崎市)
熊本県	熊本市(▲0.0)			(熊本市)	(熊本市)
大分県		大分市(1.9)		(大分市)	(大分市)
宮崎県		宮崎市(3.9)		(宮崎市)	(宮崎市)
鹿児島県		鹿児島市(3.4)		(鹿児島市)	(鹿児島市)
沖縄県		那覇市(5.3)		(那覇市)	

※東京圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)以外の昼夜間人口比率0.9以上の市を対象。なお、将来人口が推計されていない福島県の各市は除外。